



小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	姫路医療生活協同組合	代表者	荻野 俊夫	法人・事業所の特徴	「その人らしく気持ちよく生きる」を法人理念に在宅で暮らし続けられることを医療と介護の一体的なサービスで全力で支えます。当事業所は地域に支えられこの春4年目を迎えることが出来ました。事業所は明るくゆったりと落ち着ける空間となっています。サービスを柔軟に組み合わせ職員がひとつになって「その人らしさ」を支え続けます。
事業所名	小規模多機能ホーム 野里	管理者	辰田 美由起		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	4人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員の入職や異動もあるが今回の自己評価を生かし同じ項目で同じ結果にならないように取り組む。	感染症対策に追われ計画ほどの効果は上げられなかったが新しい試練のなか経験を経てチームの成長はあった。	交代勤務のためにミーティングと其々取り組んだ自己評価表を合わせ、ほぼ全員の意見が反映されていることを確認した。	チームケア力の向上を図る。自己評価を丁寧に振り返り個人の問題点を解決できるよう具体化し目標に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境			ホールが広くゆったりしている。南面の窓が大きく明るい。落ち着ける空間になっている。感染症対策もしっかり取っている。	
C. 事業所と地域のかかわり			地域のいきいき 100 歳体操の休止や秋祭りの中止、特に年度はじめは事業所も感染症対策で人の出入りを制限することになり交流が限られた。	コロナ禍で途絶えたがボランティアの受け入れを感染症対策を万全にしたうえで再開を目指す。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域住民の一人として生活していることが実感できるよう散歩や買い物、趣味の集いなど活動を広げる支援を目指す。	利用者と地域に出向き事業所内に限定しない活動を計画していたがコロナ禍で思うような行動が出来なかった。	今年度は外部との交流が困難だったが再開した会議等で訪問した折には利用者が穏やかに利用している状況が見取れた。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	継続して地域包括ケアシステムや強制社会の在り方など地域の方に考えて頂く機会にしていく。	会議自体の回数が減ってしまったが再開時は地域高齢者との意見交換も盛んに出来、介護サービスを知っていただく機会になった。	事業所に出向き繰り返しイメージを持つことで介護サービスについての理解が深まる。身近に感じることで自分のこととして考えるきっかけになる。	
F. 事業所の防災・災害対策			今年度は大きな自然災害はなかったが地域全体の問題として取り組む必要がある。感染症対策ともに継続して取り組んでいく。	